

獣医病理診断研究会 Veterinary Pathology Diagnostic Conference

趣旨：

個々の症例について獣医病理学者がディスカッションし、診断名や診断基準についてコンセンサスをとる（または診断のバラツキを知る）ことが主な目的です。また、国内における動物疾患の情報共有、獣医病理学の向上と発展を大きな目標とします。

- (1) 発表者に標本と臨床事項を提出していただく（開催日の1ヶ月前）。
- (2) 参加者にバーチャルスライドを配信する（開催日の2～3週間前）。
- (3) 参加者から診断意見書を集める（開催日の3日前までに提出して下さい）。
- (4) 当日、簡単なプレゼンテーションを行い、ディスカッションする。
組織標本と細胞標本を対象とし、主に診断基準や分類等について議論する。
診断に関連する内容であれば、発表の目的や内容は自由（複数症例、診断マーカー、標本作製などに関する発表も含む）。

スライドの提出と回覧方法：

ガラススライドを提出していただき、こちらでバーチャルスライドを作製します。インターネット上に、バーチャルスライドファイルを一定期間アップしますので、各自でダウンロードしてご覧ください。ディスカッションが進めやすいように、事前に標本を観察し、診断意見書の提出をお願いします。

場所：東大農学部（他機関での開催について、希望があれば連絡ください）

日時：奇数月の第3金曜日、19:00 から 21:00（変更する場合があります）

対象：勉強会なので若手から中堅の獣医病理学者が主な対象ですが、経験が豊富な病理の先生にも参加していただきアドバイスをお願いします。

費用：当面は無料。参加者と検討し、若干の参加費を集める可能性あり。
（バーチャルスライドデータの作製と管理、開催場所、印刷物など）

注意事項：

- 病理検査（個体の研究）が主なテーマ。基礎研究は本会の趣旨と異なる。
- 診断の難しさや症例の珍しさは問わない。診断に関する素朴な疑問も歓迎。
- 誰でも参加可。病理学を専門とする人（専門にしたい人）を中心に開催する。
- オープンな会であるため、機密性の高い内容は扱わないこと。
- 開催場所、日時、発表形式などについては、参加者の要望に応じて変更する。
- 運営が安定したら、参加者に協力をお願いして役割を分散する。